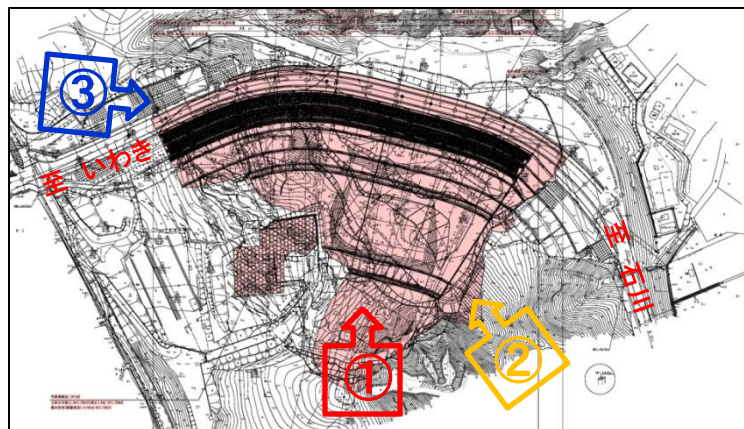


いわき石川線 大規模地すべり災害復旧工事 最新情報

1. 工事はどこまで進んだのですか？

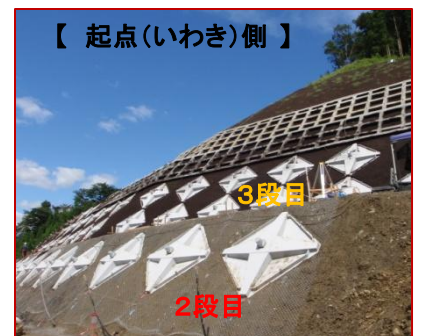
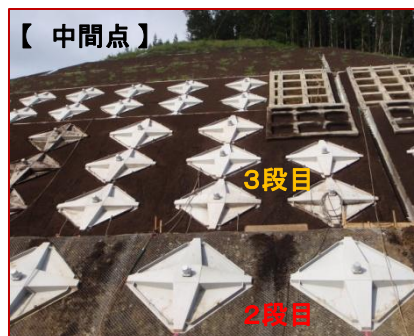
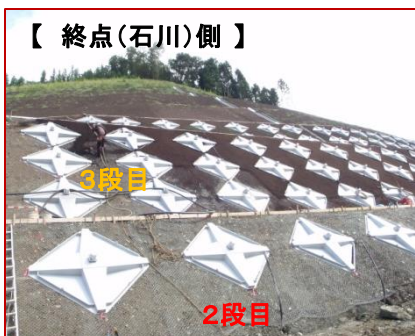
■上釜戸工区

現在、下から数えて2段目の土砂除去を行いながらグラウトアカー工を施工しています。(アカー工施工全体数量575本のうち153本(27%)が完了。)小名浜港へ運搬した約10万m³の土砂のうち、約8万m³を東港に船で運搬済みです。



■才鉢工区

現在、全10段中下から数えて2段目の斜面補強工事（グラウトアカー工）を行っており、9月末現在で3～10段目までの土砂除去（約4万m³：ダンプトラック約8,000台）と、3～10段目の植生基材吹付工（約9千m²）、さらに、グラウトアカー工の施工全体数量249本のうち192本（77%）が完了しています。

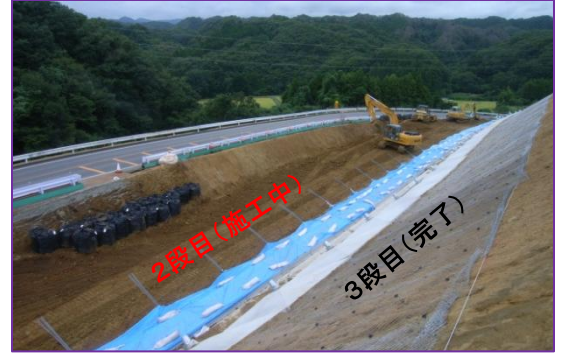
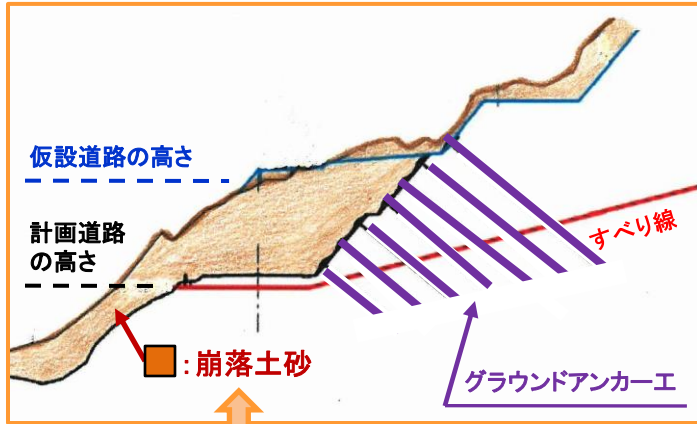


全10段中下から数えて3～10段目までの土砂除去と法面補強工事が完了

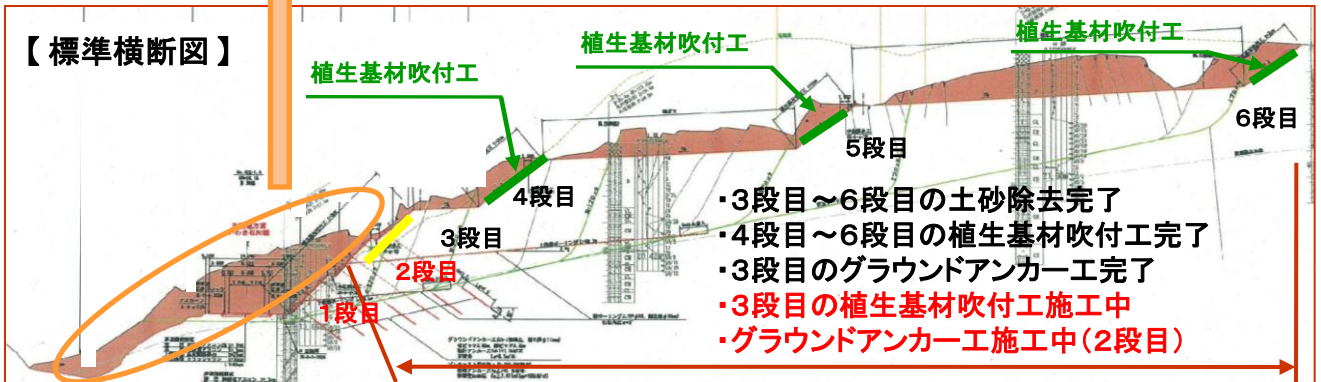
2. 今後どのような工事を行うのですか？

■上釜戸工区

今後も下から数えて2段目の土砂除去と斜面補強工事（グラウトアカー工）を行います。11月中旬から仮道工の車線切り替え工事を予定しています。

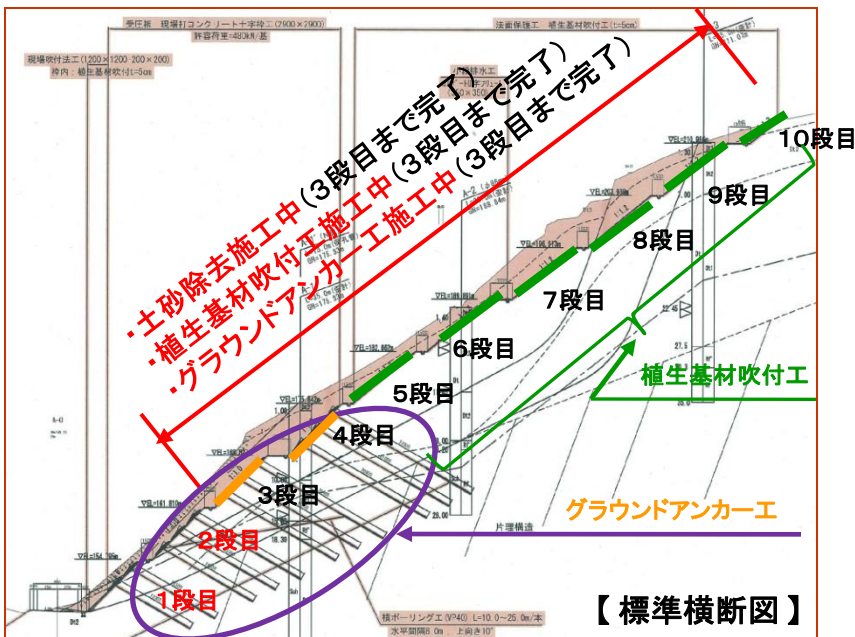


土砂撤去施工状況(2段目)



■才鉢工区

今後も下から数えて2段目の土砂除去と斜面補強工事（グラウトアカー工）を行います。その後、2段目に排水ボーリング（1本あたり25mの長さで合計15本）を施工します。



グラウトアカー工施工状況



終点側現場打込砕工施工完了

3. 現場施工の苦労話と今後の抱負。

4月末に現場の工事が本格的に始まって以降、お盆期間も含めて1日も現場を止めることなく現場作業を続けている工事関係者を代表して、各JVの現場代理人の方々に現場施工における苦労話と今後の抱負を述べてもらいました。

■**上釜戸工区** 現場代理人：猪狩 正二さん（渡辺組・常磐開発・福浜大一JV）



【苦労した点】

約20万m³の土砂の掘削・小名浜港への運搬・東港への運搬の各計画策定にあたっては、多数の関係機関との調整とダンプトラックの手配に苦労しました。1日あたり最大45台のダンプトラックを使用したため、運搬路周辺の住民の皆様には迷惑をかけないように、ドライバーの安全教育を徹底しました。住民の方から寄せられた「いわき石川線のシールを貼ったダンプトラックは運転マナーがとても良い」とのあたたかい言葉に甘えることなく、今後も日々の安全管理を徹底していきます。

【今後の抱負】

現在の仮道工は崩落した土砂を利用して造ったものなので、最終的には被災前の道路の高さまで最大14m掘り下げなければなりません。今後は2車線を確保するために通行する車線を切り替えながら仮道工を段階的に掘り下げていくという難工事が待っています。今まで同様に綿密な安全管理と品質管理を実践し、1日も早い工事の完成といわき市の早期復興に努めていきます。

■**才鉢工区** 現場代理人：古川 真一さん（福浜大一・常磐開発・渡辺組JV）



【苦労した点】

今回の工事は土工の中でもまれにみる高さ65mの片切掘削で、重機の足場も狭く、土工・排水工・のり面工等の混在作業をマネジメントするのに大変苦労しました。準備作業である伐採作業と仮設道路の工事が想定以上の難工事となり、工程に若干の遅れが生じたため、その後は増員・施工機械の増・休日作業を行い、職員が一体となって工程の回復を図りました。今年の夏は連日猛暑であったため、現場作業員の方々の熱中症対策にも万全を期しました。

【今後の抱負】

建設業の役割は計り知れないものがあり、橋や道路などの公共事業だけでなく今回のような災害が起こった時のライフラインの確保や復旧等、地域に欠かせない存在だと思います。建設業がやらねば誰がやる！才鉢工区の工事を高い品質を確保しながら無事故・無災害で完成させることで、いわきの建設業をもっともっと盛り上げていけるように微力ではありますが日々努力していきます。

4. 地元の高校生の現場実習と中学生の職場体験学習が行われました。

9月26日～28日にかけて県立磐城農業高校（5名）の学生と市立湯本第一中学校（4名）の生徒の皆さんが上釜戸工区の工事現場で「現場実習」と「職場体験学習」を行いました。土木の仕事に興味を持ってくれたかな？



高校生の生コン打設体験



中学生が重機と記念撮影

【事務担当】

復旧・復興課 道路・橋梁復旧担当 主任主査 渡邊 敦宏 電話：0246(35)6075